

## 補助 29 号線事業認可の取り消しを求める要請

住民の暮らしと安全・環境を守る会

会長 原田泰雄 品川区戸越 6-10-4-304

- 1、 補助 29 号線の認可申請で、東京都は理由の第 1 に「交通の円滑化」を挙げているが、住民には全く説明しないで申請が出された。このことに対し 2014 年 2 月、住民を欺く問題であり、認可をするなど要請したが、認可されている。
- 2、 認可を不服として住民が不服審査請求をしている。(1 次 107 名 2 次 217 名) まだ審査の最中であるのに、東京都は残る都市整備局の地域を地元の説明会や商店街の納得を得られていないのに申請を強行している。
  - ① **戸越公園商店街**は品川区の中央にあり下町の風情があり、区民に親しまれている街となっているが、29 号線で商店街が壊される危機に直面している。(マスコミで大きく取り上げられている。)戸越公園駅前が大きな踏切となると交通の渋滞で危険が増す。また全国 1 の長さを誇り、都内からも多くの買い物客が訪れる**戸越銀座商店街**が 29 号線で分断され、人の流れが止まる商店街への影響や、谷底になる地域の環境悪化の影響は大きい。
- 3、 計画の近くを平行に国道 1 号線がある。近年交通量が減っており、渋滞はなく今後車の増加が見込まれず、新たな道路建設に多額の税金を使う裏付けがなく説明もされていない。国土交通省が平成 20 年に「新たな中期計画」から照らしても納得出来ない。
- 4 地域の防災活動や効果が大である 2 つの大きな公園や広場が 29 号線で半分になる。防災に役立つ道路と説明するが、地域住民の防災に大事な広場が壊されることへ何も説明がされないで事業化が進むことが納得出来ない。
- 5、 東京都の防災計画は大型道路建設が中心になっている。政府の中央防災審議会では、家屋の耐震化、火事を出さない対策、感震ブレーカーの設置の重要性をのべているが、その重要性への対策である住宅への助成制度が進んでいない。
- 6、 立ち退きの対象住民は、長期に渡って不自由な制限を受け、生活してきている。長年住んでいる家を失うことへの補償が同じ地域では受けられない現実である。高齢者は今後生活が成り立たなくなると悩んでいる。若い人はローンを抱え今後の生活に大きな不安を抱え、自営業の方はこの地を離れての営業は困難で死活問題となっている。

災害に見舞われた地域の多くで、人々のコミュニティーが生きるよりどころになっている実態が明らかです。コミュニティーを考えないでつくった復興街づくりには大きな欠陥があったことがテレビで紹介され、神戸の長田町の街の復興計画担当者が認めています「街は災害に強い街になったが、街の活気が失われ、孤独死が防げず、コミュニティーが薄くなってしまった」という神戸の実例は、大型道路建設で住民のコミュニティーが壊されることの大きな問題と、防災街づくりのへの大きな教訓を示唆しています。

特定整備路線の事業化には防災上、街の活性化の上でも、財政面でも大きな問題を将来に残すことであり、事業認可の取り消しと白紙撤回を求めます。